

**青森市小学校給食センター等整備運営事業  
要求水準書【修正版】 資料**

資料 1	対象校所在地一覧
資料 2	対象校の児童・生徒数・学級数・職員数
資料 2-2	対象校の追加条件
資料 3	地区計画の概要
資料 4	現況図及び中学校給食センター配置図
資料 4-2	敷地図
資料 4-3	上水道標準切出し図
資料 5	地質調査報告書
資料 5-2	CBR 試験結果
資料 6	諸室リスト
資料 7	市専用備品リスト
資料 7-2	諸室備品参考リスト
資料 8	ボイラー水質資料
資料 9	厨房設備参考リスト
資料 10	運営備品等（食器・食缶等）リスト
資料 10-2	バイキング給食専用食器類の参考例
資料 11	食器・食缶の使用例
資料 12	貸与備品リスト[中学校給食センター]
資料 13	献立表（中学校：平成 22 年度）
資料 14	使用食材の発注量
資料 15	残渣量計量結果
資料 16	廃油処理量
資料 17	配膳業務の概要
資料 18	対象校の給食時間（平成 22 年度）
資料 19	配送・回収計画 [中学校給食センター]

資料1 対象校所在地一覧

○小学校

学校名	所在地
久栗坂小学校	青森市久栗坂字山辺 170
大野小学校	青森市東大野一丁目 3-1
戸山西小学校	青森市駒込字螢沢 17-11
千刈小学校	青森市千刈一丁目 10-20
萁町小学校	青森市青柳二丁目 7-25
橋本小学校	青森市橋本一丁目 9-17
浦町小学校	青森市中央二丁目 17-13
長島小学校	青森市長島三丁目 8-1
浜田小学校	青森市浜田字豊田 36-2
浜館小学校	青森市田屋敷字下り松 17
筒井小学校	青森市筒井一丁目 1-1
造道小学校	青森市造道三丁目 4-16
小柳小学校	青森市小柳四丁目 6-1
横内小学校	青森市野尻字野田 60
幸畑小学校	青森市幸畑字松元 50-2
原別小学校	青森市原別字袖崎 8
野内小学校	青森市野内字菊川 153
東陽小学校	青森市宮田字玉水 181-1
浅虫小学校	青森市浅虫字山下 132
篠田小学校	青森市篠田三丁目 16-2
沖館小学校	青森市沖館五丁目 3-1
新城小学校	青森市新城字平岡 266-14
三内小学校	青森市里見一丁目 9-1
泉川小学校	青森市浪館字泉川 1-1
浪館小学校	青森市浪館前田三丁目 23-1
甲田小学校	青森市金沢一丁目 6-1
金沢小学校	青森市金沢四丁目 5-1
奥内小学校	青森市清水字浜元 181
後潟小学校	青森市六枚橋字磯打 95
西田沢小学校	青森市飛鳥字塩越 80
荒川小学校	青森市荒川字柴田 92-5
野沢小学校	青森市野沢字沢部 108
高田小学校	青森市高田字川瀬 200-5

## ○中学校

学校名	所在地
浪打中学校	青森市合浦一丁目 11-10
佃中学校	青森市中佃二丁目 7-1
南中学校	青森市緑二丁目 6-1
古川中学校	青森市久須志二丁目 9-1
沖館中学校	青森市沖館五丁目 19-1
油川中学校	青森市羽白字沢田 471
西中学校	青森市浪館字志田 36
東中学校	青森市八幡林字熊谷 28
筒井中学校	青森市桜川八丁目 15-1
横内中学校	青森市四ツ石字里見 64-6
荒川中学校	青森市金浜字稲田 107
新城中学校	青森市新城字平岡 160
甲田中学校	青森市金沢三丁目 11-1
浦町中学校	青森市勝田二丁目 25-12
造道中学校	青森市岡造道二丁目 14-1
浅虫中学校	青森市久栗坂字浜田 129-5
戸山中学校	青森市戸山字赤坂 78-3
北中学校	青森市清水字浜元 135-1
三内中学校	青森市三内字丸山 108-4

資料2 対象校の児童・生徒数・学級数・職員数

○小学校（平成22年5月1日現在）

学校名	総学級数	児童数	教職員数	総数
久栗坂小学校	4	38	12	50
大野小学校	27	778	49	827
戸山西小学校	19	583	37	620
千刈小学校	14	356	26	382
菟町小学校	6	79	12	91
橋本小学校	8	82	16	98
浦町小学校	13	392	25	417
長島小学校	9	147	23	170
浜田小学校	27	798	41	839
浜館小学校	12	380	23	403
筒井小学校	20	557	33	590
造道小学校	20	622	33	655
小柳小学校	22	660	33	693
横内小学校	13	348	24	372
幸畑小学校	14	383	25	408
原別小学校	14	414	23	437
野内小学校	6	88	12	100
東陽小学校	6	112	12	124
浅虫小学校	4	39	9	48
篠田小学校	15	386	24	410
沖館小学校	26	817	42	859
新城小学校	12	326	21	347
三内小学校	16	435	26	461
泉川小学校	19	516	30	546
浪館小学校	17	462	28	490
甲田小学校	11	251	21	272
金沢小学校	20	537	31	568
奥内小学校	6	97	12	109
後潟小学校	6	108	12	120
西田沢小学校	7	85	13	98
栄山小学校	4	39	9	48
荒川小学校	11	264	21	285

学校名	総学級数	児童数	教職員数	総数
野沢小学校	4	25	9	34
高田小学校	6	74	12	86
計	438	11278	779	12057

※1 栄山小学校と泉川小学校は、平成 24 年 4 月に統合予定（統合後の使用施設は泉川小学校）。

○中学校（平成 22 年 5 月 1 日現在）

学校名	総学級数	生徒数	教職員数	総数
浪打中学校	11	317	27	344
佃中学校	16	555	35	590
南中学校	20	650	40	690
古川中学校	12	373	30	403
沖館中学校	17	564	37	601
油川中学校	14	418	30	448
西中学校	16	480	35	515
東中学校	12	324	28	352
筒井中学校	20	636	43	679
横内中学校	10	281	26	307
荒川中学校	6	123	17	140
高田中学校 ※2	3	48	11	59
新城中学校	19	601	42	643
甲田中学校	14	476	30	506
浦町中学校	18	490	31	521
造道中学校	15	534	33	567
浅虫中学校	4	64	12	76
戸山中学校	12	335	27	362
北中学校	5	141	15	156
三内中学校	15	430	35	465
計	259	7840	584	8424

※2 高田中学校は、平成 23 年 4 月に荒川中学校に統合。

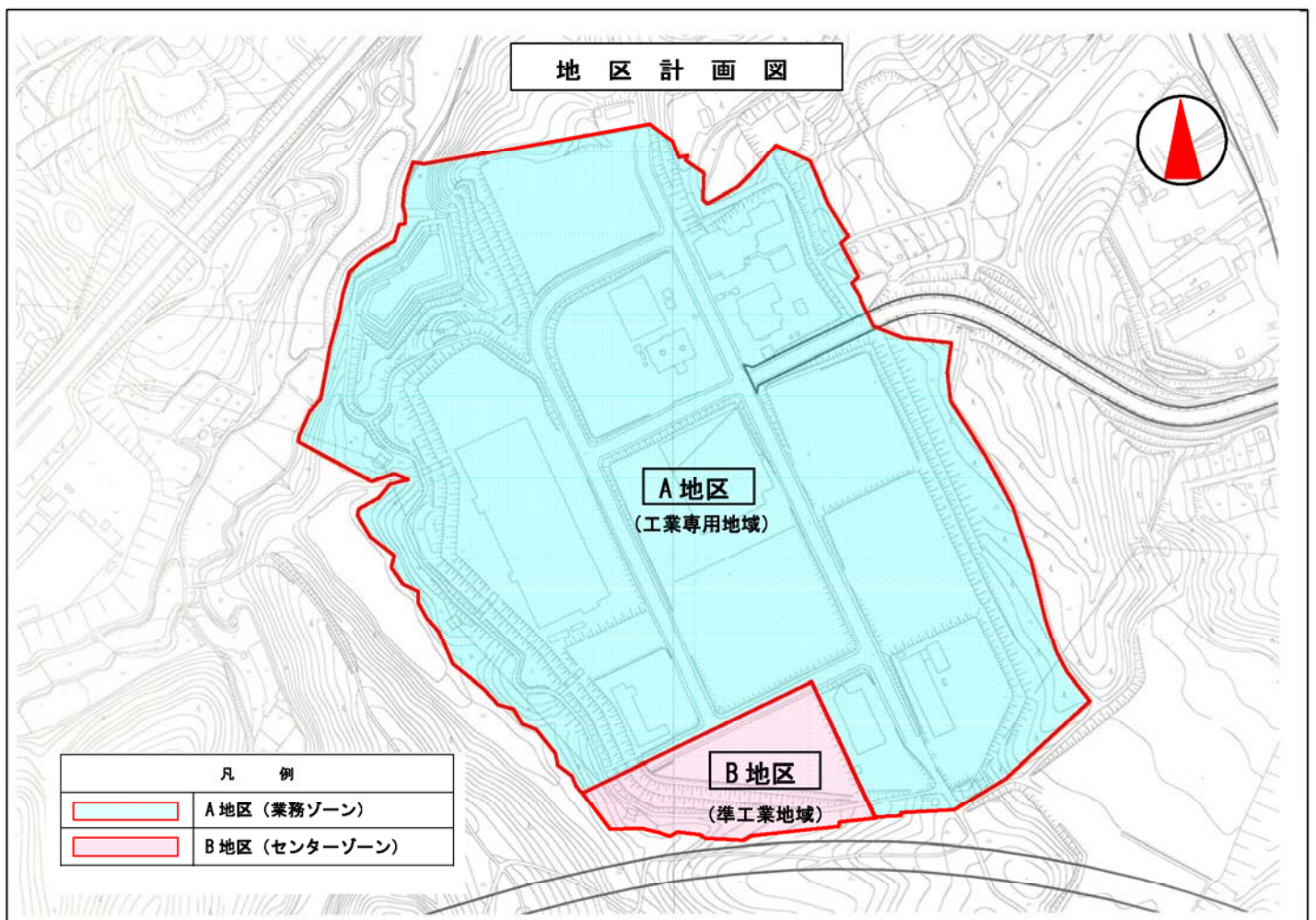
資料 2 - 2 対象校の追加条件

年度	小学校給食センター		中学校給食センター	
	実施給食数 (児童+職員等) 見込(食)	集約校	実施給食数 (生徒+職員等) 見込(食)	集約校
平成26	11,100	A小学校※ B小学校 C小学校 D小学校	8,400	
平成27	11,500	E小学校	8,300	
平成28	11,700	F小学校	8,200	
平成29	11,500		7,800	
平成30	11,300		7,500	
平成31	11,100		7,300	
平成32	11,200	G小学校	7,200	
平成33	11,400	H小学校	7,200	
平成34	11,400	I小学校	7,000	
平成35	11,100		6,800	
平成36	11,400	J小学校	6,600	
平成37	11,400	K小学校	6,500	
平成38	11,200		6,300	
平成39	11,800	L小学校 M小学校 N小学校 O小学校 P小学校 Q小学校	6,600	R中学校
平成40	11,500		6,500	

注：平成22年度学級編制表及び新入学児童見込数（平成22年5月1日基準日）による推計。

※ A小学校は、平成24年4月から浅虫中学校に併置される。

名 称	三内（西部工業団地）地区計画	
位 置	青森市大字三内字丸山の一部	
区 域	計画図表示のとおり	
面 積	約 27.9ha	
区域の整備・開発及び保全の方針	地区計画の目標	<p>本地区は市中心部から西へ約 4.5km の距離にあり、東北縦貫自動車道弘前線青森インターチェンジに近接し、アクセス性に優れた工業団地として整備を進めてきている。</p> <p>本地区の周囲には、三内丸山遺跡や（仮称）青森県総合芸術パークの整備が進められるなど、都市的需要が高い地区であるとともに、頭脳立地法に基づく幅広い業種の集積が見込まれることから、本地区では 21 世紀を展望した複合型産業拠点づくりを目標とする。</p>
	土地利用の方針	<p>機能性と複合的な土地利用に配慮しつつ、ゆとり空間の誘導等により、快適で良好な産業環境の形成を図る。</p> <p>① 工業・業務施設等の立地を図る地区を「業務ゾーン（A地区）」とする。</p> <p>② 地区内の福利厚生・交流機能を担う施設等の立地を図る地区を「センターゾーン（B地区）」とする。</p>
	建築物等の整備の方針	<p>快適で良好な産業環境を形成するため、次のとおり建築物等の制限を行う。</p> <p>①「業務ゾーン（A地区）」では、ゆとりある産業空間を形成するために必要な制限を定める。</p> <p>②「センターゾーン（B地区）」では、地区内の福利厚生機能等の形成を促進するために必要な制限を定める。</p>

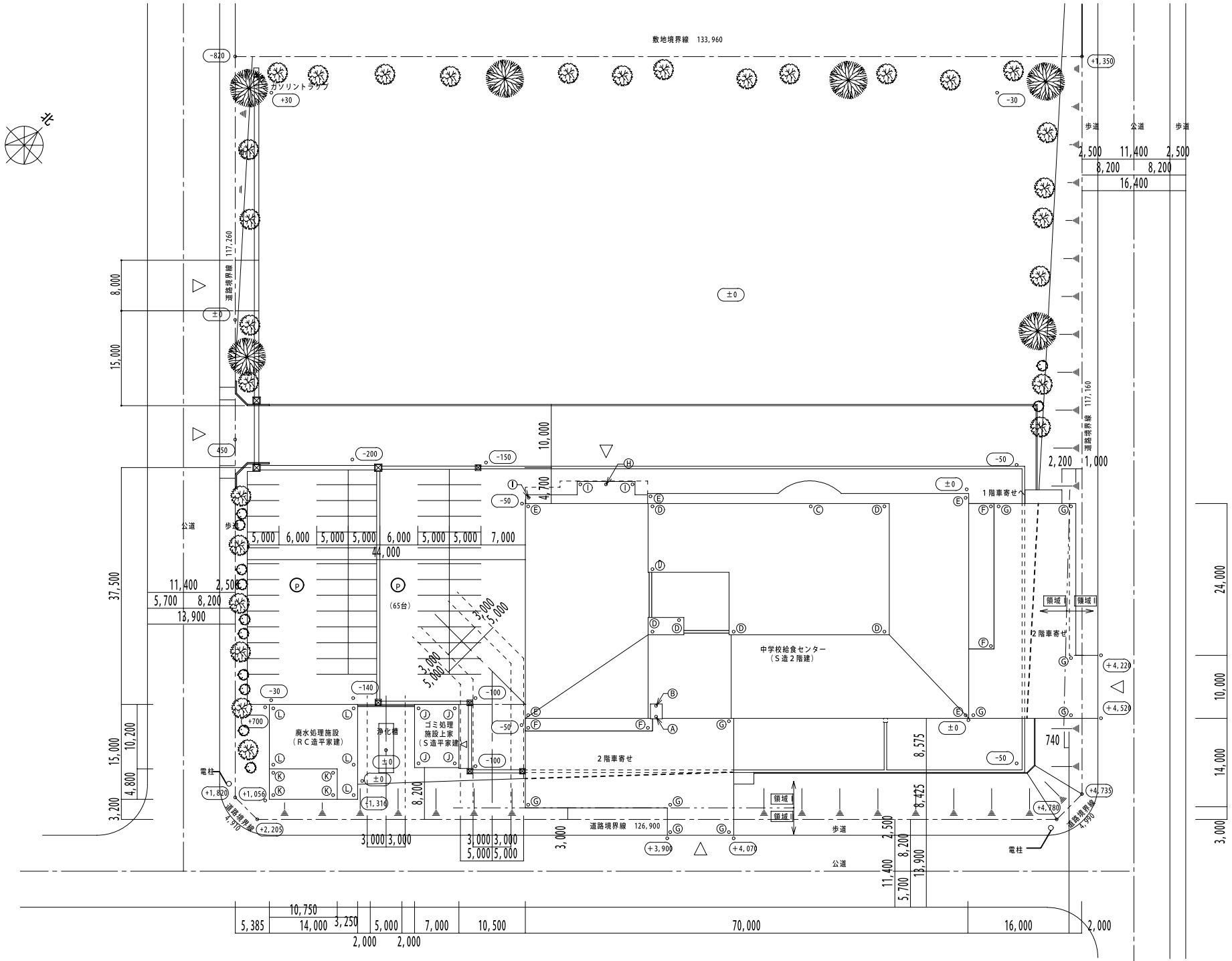


地区区分	名称	A地区（業務ゾーン）	B地区（センターゾーン）
		面積	約26.0ha
地区整備計画 建築物等に関する事項	建築物等の用途の制限	<p>次の各号に掲げる建築物は、建築してはならない。</p> <p>① 個室付き公衆浴場業に係る公衆浴場その他これに類するもの</p> <p>② マージャン屋、ぱちんこ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの</p> <p>③ カラオケボックスその他これらに類するもの</p> <p>④ キャバレー、料理店、ナイトクラブ、ダンスホールその他これらに類するもの</p> <p>⑤ ホテル又は旅館</p> <p>⑥ 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋</p> <p>⑦ 住宅</p> <p>⑧ 自動車教習所</p> <p>⑨ 床面積の合計が15㎡を超える畜舎</p>	
	建築物の敷地面積の最低限度	1,000㎡	
	壁面の位置の制限	建築物の外壁面若しくはこれに代わる柱に面は、道路境界線及び隣地境界線までの距離を3メートル以上とする。	
	建築等の形態又は意匠の制限	<p>① 建築物の外壁面若しくは外部に面する柱は、周辺景観に配慮し、周辺と調和した色調とする。</p> <p>② 広告物又は看板は、周辺環境に配慮し、周辺と調和したものとする。</p>	
	かき又はさくの構造	かき又はさく（生垣は除く）は、フェンス等の透視可能なものとし、高さは2メートル以下とする。 基礎を構築する場合には、基礎の高さが宅地地盤面から1.2メートル以下とする。	
備考	<p>1 当該地区計画の施行の際、上記規定に適合しないこととなる建築物又は建築物の部分については上記の規定は適用しない。</p> <p>2 建築物の敷地が地区整備計画の規定による建築物等の用途の制限又は敷地面積の最低限度に関する制限を受ける区域又は地区の内外にわたる場合においては、その建築物又はその敷地の全部について、敷地の過半が属する区域又は地区の規定を適用する。</p> <p>3 建築物の敷地が地区整備計画の規定による建築物等の壁面の位置の制限又は建築物等の形態又は意匠の制限及びかき又はさくの構造に関する制限を受ける地区又は区域の内外にわたる場合においては、これらの規定による制限を受ける地区又は区域内に存するその建築物の部分又はその敷地の部分についてこれらの規定を適用する。</p> <p>4 法令等により防火上設置が義務付けられている塀等については、地区整備計画によるかき又はさくの構造に関する規定を適用しない。</p> <p>5 市長が、公益上必要な建築物で用途上又は構造上やむを得ないと認めたものについては、地区整備計画の全部又は一部の適用を除外することができる。</p>		

「区域は計画図表示のとおり」



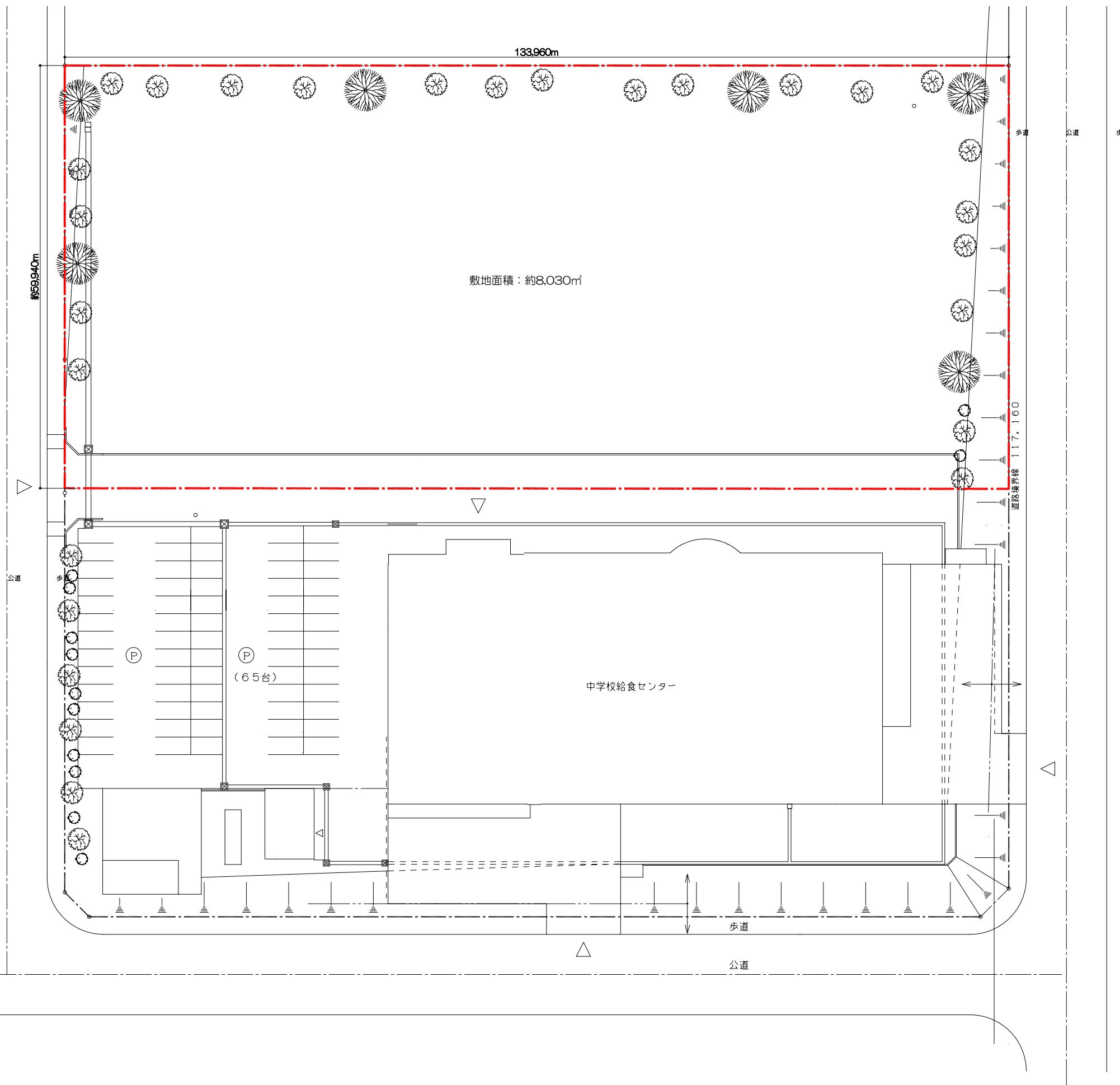
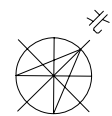
資料4 現況図及び中学校給食センター配置図



1/800 (A3)

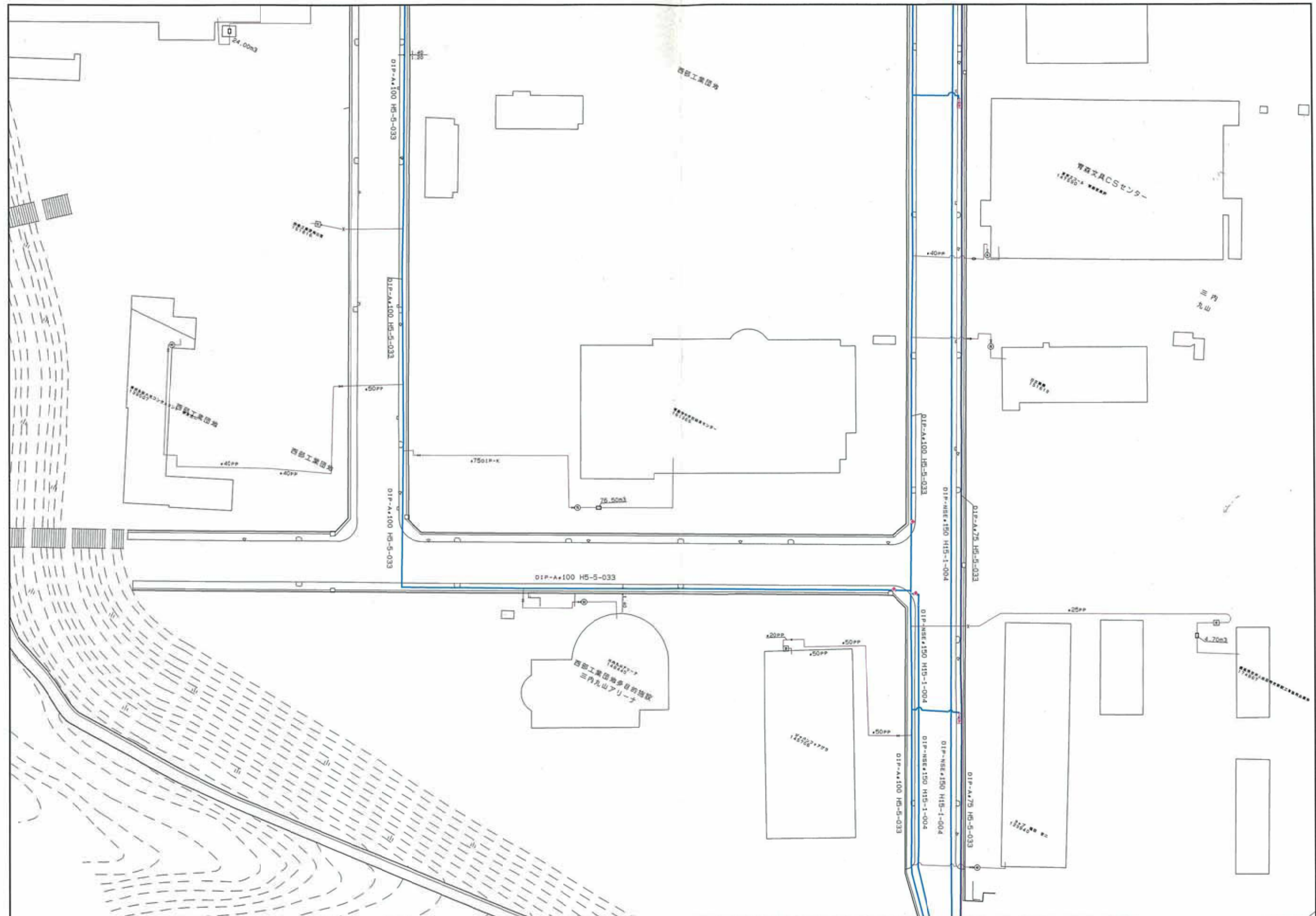
- 凡例
- 内の数字：設計GLからの地盤高さを示す
  - ：設計GLからの建築物の各部の高さを示す

	設計GL (±0) からの建築物の高さ	領域I 地盤面 (+8.44) からの建築物の高さ	領域II 地盤面 (+3.833) からの建築物の高さ	雨水処理施設 地盤面 (+5.04) からの建築物の高さ
中学校給食センター	Ⓐ	+ 16.850	+ 16.006	+ 13.017
	Ⓑ	+ 16.190	+ 15.346	+ 12.357
	Ⓒ	+ 16.200	+ 15.356	+ 12.367
	Ⓓ	+ 14.900	+ 14.056	+ 11.067
	Ⓔ	+ 11.250	+ 10.406	+ 7.417
	Ⓕ	+ 10.000	+ 9.156	+ 6.167
	Ⓖ	+ 6.200	+ 5.356	+ 2.367
	Ⓗ	+ 6.080	+ 5.236	+ 2.247
	Ⓙ	+ 5.330	+ 4.486	+ 1.497
ゴミ処理施設 上家	Ⓚ	+ 5.300		
	Ⓛ	+ 4.600		
雨水処理施設	Ⓚ	+ 4.600		+ 4.096
	Ⓛ	+ 1.000		+ 496



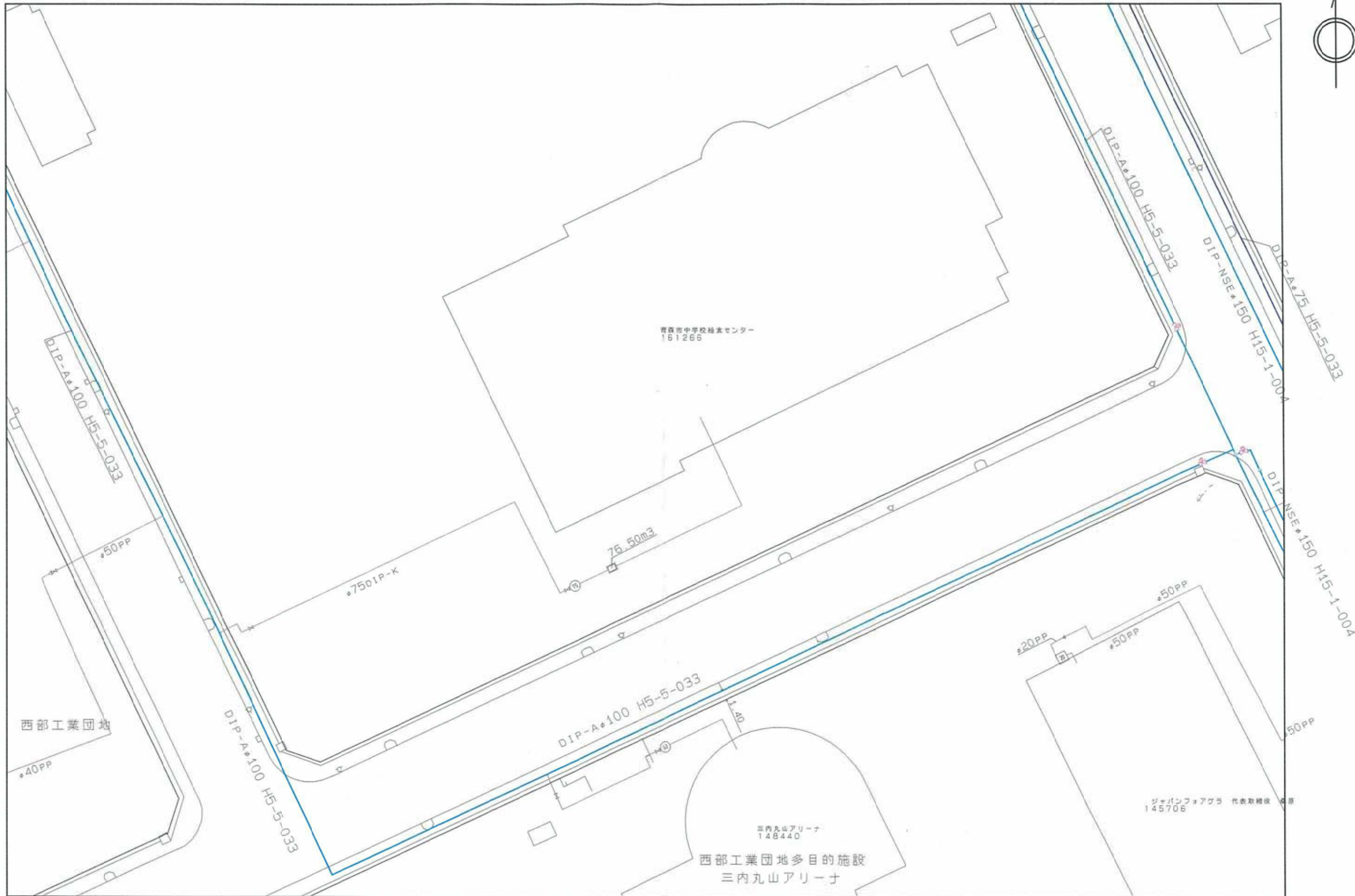
配置図 1/600

# 標準切出し出図

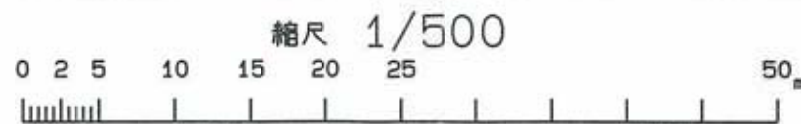


# 標準切出し出図

3721-1



図面出力年月日 10.07.21



3721-3

## 資料5 地質調査報告書

- ※ 本資料は、中学校給食センターの整備に当たり、市が事業用地内の用地の地質調査を実施した「平成12年度（仮称）青森市中学校共同調理場建設用地地質調査業務委託報告書」の一部を示すものである。なお、当該報告書の全文は、青森市都市整備部建築営繕課にて閲覧可能である。

調査位置図 S=1:1,000



# ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内				北緯			
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成12年12月16日～12年12月23日			東経			
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)	主任技師	竹内 義一	現場代理人	佐藤 平内	コア鑑定者	ア 工藤 浩	ボーリング責任者	工藤 浩		
孔口標高	H=0.81m	角	180°上 90°	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直0° 水平0°	使用機種	東邦D-1	ハンマー落下用具	トンビ
総掘進長	30.15m	度	0°	向				エンジン	NFD-12	ポンプ	BG-3B

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験 年月日	掘進 年月日		
										深 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	N 値	深 (m)							深 (m)	深 (m)
1	-0.29	1.10	1.10		砂質粘土	褐色			上部草根を混入している。砂分を含んでいる。φ1~2mmの小礫を混入する。	12/19 0.20	1.15	3	4	3	10/30	10				12/19		
2					砂混じり火山灰	灰~暗灰			含水やや多い。上部火山灰がシルト状になっている。7m付近より砂質強く、φ2~10mmの浮石を非常に多く混入している。全体にφ2mm程度の小礫を混入している。所々にφ10~20mmの軽石を混入している。10.90m付近、φ40mm程度の軽石を混入している。砂分は中砂主体で、石英砂を含んでいる。	12/23 6.00 12/27 6.50	1.45	2	1	2	5/30	5						
3					火山灰質粘土	黄灰	非常に密な		含水中位。砂分は細砂~中砂である。石英砂を多く含みφ2~3mmの珪円礫を混入している。		2.45	1	3	4	8/30	8						
4					火山灰質砂	暗灰~淡灰~暗灰	非常に密な		含水中位。砂分は細砂~中砂である。石英砂を多く含みφ2~3mmの珪円礫を混入している。		3.45	1	1	2	4/30	4						
5					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		4.45	4	4	6	14/30	14						
6					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		5.45	6	8	10	24/30	24						
7					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		6.45	10	10	16	36/30	36						
8					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		7.45	13	18	19	50/28	54						
9					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		8.43	12	19	19	60/30	60						
10					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		9.45	20	27	3	50/21	71						
11					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		10.15	23	27	8	50/18	83						
12					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		11.23	6	6	9	21/30	21						
13					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		12.45	50	50	50	50/9	167						
14					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		13.05	13	30	7	50/22	68						
15					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		14.37	15	19	16	50/28	54						
16					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		15.15	39	11	2	50/12	125						
17					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		16.27	45	5	1	50/11	136						
18					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		17.09	16	29	5	60/21	71						
19					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		18.15	21	29	6	60/16	94						
20					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		19.31	13	37	6	50/16	94						
21					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		20.31	50	8	8	50/8	188						
22					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		21.13	17	33	14	50/20	75						
					砂	褐色	非常に密な		含水中位。φ10~30mmの珪円礫主体である。maxφ70mmの珪円礫を混入する。砂分は中~粗砂である。		22.35	19	31	50	50							

孔口標高	0.81m	180° 上 90° 下 0°	力 向	270° 西 180° 南	北 0° 東 90°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	東邦D-1	ハンマー 落下用具	トンビ
総掘進長	30.15m							エンジン	NFD-12	ポンプ	BG-3B

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状 図	土質 区分	色調	相対 密度	相対 稠度	記 事	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取 方法	室内試験 ( )	掘進 月日		
									孔内水位 (m) / 測定月日	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)									N 値	
											0	10	20								
1	-0.29	1.10	1.10	砂質粘土	褐灰			上部草根を混入している。砂分を含んでいる。φ1~2mmの小礫を混入する。	12/19 0.20	1.15	3	4	3	10	10				12/19		
2				砂混じり火山灰	灰~暗灰			含水やや多い。上部火山灰がシルト状になっている。7m付近より砂質強く、φ2~10mmの浮石を非常に多く混入している。全体にφ2mm程度の小礫を混入している。所々にφ10~20mmの軽石を混入している。10.90m付近、φ40mm程度の軽石を混入している。砂分は中砂主体で、石英砂を含んでいる。	12/23 6.00	1.45	2	1	2	5	6				12/20		
3						2.15	2		1	2	5	6									
4						2.45	1		3	4	8	8									
5						3.15	1		1	2	4	4									
6						4.15	1		1	2	4	4									
7						4.45	4		4	6	14	14									
8						5.15	4		4	6	14	14									
9						6.45	6		8	10	24	24									
10						6.65	10		10	16	36	36									
11						7.45	13		18	19	50	54									
12	-10.89	10.60	11.70	8.16	8	43	19	50	60												
13	-11.89	1.00	12.70	9.16	12	19	19	50	60												
14				9.45	20	27	3	50	71												
15				10.15	23	27	1	50	71												
16				10.35	23	27	8	50	83												
17				11.05	6	6	9	21	83												
18				12.15	50	9	9	50	21												
19				12.45	9	9	9	50	167												
20				13.05	13	30	7	50	167												
21				13.14	13	30	2	50	167												
22				14.15	15	19	16	50	68												
23				14.37	15	19	8	50	68												
24				15.15	39	11	2	50	54												
25				16.15	45	5	1	50	125												
26				16.27	45	5	1	50	125												
27				17.05	16	29	5	50	136												
28				17.16	16	29	1	50	136												
29				18.15	21	29	6	50	71												
30				18.36	21	29	6	50	71												
31				19.15	13	37	6	50	94												
32				19.31	50	8	8	50	94												
33				20.15	50	8	8	50	94												
34				20.31	17	33	6	50	188												
35				21.05	17	33	6	50	188												
36				21.13	19	31	7	50	188												
37				22.15	23	27	6	50	75												
38				22.35	23	27	6	50	75												
39				23.05	23	27	6	50	88												
40				23.22	23	27	6	50	88												
41				24.05	25	25	6	50	94												
42				24.21	25	25	6	50	94												
43				25.05	23	27	6	50	94												
44				25.21	23	27	6	50	94												
45				26.05	25	25	5	50	94												
46				26.21	25	25	5	50	94												
47				27.05	23	27	5	50	100												
48				27.20	23	27	5	50	100												
49				28.05	25	25	5	50	100												
50				28.20	25	25	5	50	100												
51				29.00	25	25	5	50	100												
52				29.15	25	25	5	50	100												
53				30.00	25	25	5	50	100												
54				30.09	25	25	5	50	100												
55				30.15	25	25	5	50	100												



# ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 2		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯	
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成12年12月25日～13年1月11日		東経	
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)		主任技師	竹内 義一	現場代理人	佐藤 平内	コ鑑定者	工藤 浩
ボーリング責任者							工藤 浩	
孔口標高	H=0.90m	角	180°上 90° 0°下	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種
総掘進長	30.25m	度						試錐機
								エンジン
								TS-100
								NFD-12
								ハンマー 落下用具
								ポンプ
								トンビ
								NOP-40

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日	
									深	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	N値					
0.20	0.70	0.70		砂質粘土	褐灰			火山灰を多く含む。 φ2mm程度の小礫を混入する。	12/25 0.80	1.15	3	3	3	9/30			12/25
									12/26 2.50	1.45	2	3	3	8/30			
									1/9 5.00	2.15	2	3	3	8/30			
									1/10 5.20	2.45	2	3	3	8/30			
				砂混じり火山灰	暗灰			含水多い。 上部火山灰がシルト状になっている。 6.00~7.50m、含水非常に多い。 9m付近より砂質強くなっている。 9.30m付近、φ30mmの軽石を混入する。 完全に石英砂を多く含んでいる。 所々に小礫を混入する。	12/25 2.50	3.15	2	3	3	8/30			
									1/9 5.00	3.45	2	1	2	5/30			
									1/10 5.20	4.15	2	1	2	5/30			
									1/9 5.00	4.45	2	1	2	5/30			
									1/10 5.20	5.15	2	1	2	5/30			
									1/9 5.00	6.45	1	1	2	2/35			
									1/10 5.20	6.15	1	1	2	2/35			
									1/9 5.00	6.60	1	1	2	2/35			
									1/10 5.20	7.15	1	1	2	2/35			
									1/9 5.00	7.60	1	2	2	5/30			
									1/10 5.20	8.16	1	2	2	5/30			
									1/9 5.00	8.45	6	8	12	26/30			
									1/10 5.20	9.15	6	8	12	26/30			
									1/9 5.00	9.45	7	8	12	27/30			
									1/10 5.20	10.15	7	8	12	27/30			
									1/9 5.00	10.45	6	9	10	25/30			
									1/10 5.20	11.15	6	9	10	25/30			
									1/9 5.00	11.45	3	4	4	11/30			
				火山灰質粘土	黄灰			含水中位。 若干砂質で粘性中位。	1/10 5.20	12.15	38	12	2	50/12			
									1/9 5.00	12.45	26	21	4	50/21			
									1/10 5.20	13.05	26	21	4	50/21			
									1/9 5.00	13.17	24	26	8	50/18			
									1/10 5.20	14.05	25	25	7	50/17			
									1/9 5.00	14.25	25	25	7	50/17			
									1/10 5.20	15.15	17	25	8	50/22			
									1/9 5.00	16.05	23	27	16	50/30			
									1/10 5.20	16.22	28	22	7	50/17			
									1/9 5.00	17.05	28	22	7	50/17			
									1/10 5.20	17.27	23	27	16	50/30			
									1/9 5.00	18.15	28	22	7	50/17			
									1/10 5.20	18.35	28	22	7	50/17			
									1/9 5.00	19.15	50	8	8	188			
									1/10 5.20	20.05	50	8	8	188			
									1/9 5.00	20.13	50	8	8	188			
									1/10 5.20	21.00	7	6	7	20/30			
									1/9 5.00	21.09	7	6	7	20/30			
									1/10 5.20	22.15	5	7	12	24			
									1/9 5.00	22.45	5	7	12	24			

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	標準貫入試験				原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	試料採取 番号	室内試験 採取方法	掘進 月日	
									孔内水位 (m) / 測定月日	10cmごとの 打撃回数	0	10							20
1	0.20	0.70	砂質粘土	褐灰				火山灰を多く含む。 φ2mm程度の小礫を混入する。	12/25 0.80	1.15	3	3	3	9				12/25	
2										1.45									
3									12/26 2.80	2.15	2	3	3	8					
4										2.45									
5								含水多い。 上部火山灰がシルト状になって いる。 6.00~7.50m、含水非常に多 い。 9m付近より砂質強くなってい る。 9.30m付近、φ30mmの軽石を混 入する。 全体に石英砂を多く含んでい る。 所々に小礫を混入する。	1/9 5.90	3.15	2	3	3	8					
6									1/10 5.20	3.45									
7										4.15	2	1	2	5					
8										4.45									
9										5.15	2	1	2	5					
10										6.45									
11										6.15	1	1	2	2					
12	-10.60	10.80	11.50	火山灰質粘土	黄灰			含水中位。 若干砂質で粘性中位。		6.60	1	1	2	2					
13										7.15	1	1	2	2					
14										7.50	1	1	2	2					
15										8.15	1	2	2	5					
16										8.45									
17										9.15	6	8	12	26					
18										9.45									
19										10.15	7	8	12	27					
20										10.45									
21	-11.80	1.20	12.70	火山灰質砂	黄灰			含水中位。 15m付近まで中砂で石英砂を多 く含んでいる。 14m付近、φ30mmの亜円礫を混 入している。 15m付近から均一する細砂で、 炭化物を含んでいる。 19.00m付近、φ10~20mmの亜円 礫を混入する。 所々固結している。		11.15	6	9	10	25					
22										11.45									
23										12.15	3	4	4	11					
24										12.45	38	12	2	50					
25										13.05									
26										13.17									
27										14.05	25	21	4	50					
28										14.25									
29										15.15	24	26	8	50					
30										15.33									
31										16.05	25	25	7	50					
32										16.22									
33										17.05	17	25	8	50					
34										17.27									
35										18.15	23	27		50					
36										18.35									
37										19.15	28	22	7	50					
38										19.32									
39										20.05	50			50					
40										20.13	8			8					
41										21.00	50			50					
42										21.09	9			9					
43										22.15	7	6	7	20					
44										22.45									
45										23.15	5	7	12	24					
46										23.45									
47										24.15	12	25	13	50					
48										24.35									
49										25.15	14	26	10	50					
50										25.37									
51										26.15	14	30	6	50					
52										26.35									
53										27.15	17	33		50					
54										27.35									
55										28.15	15	29	6	50					
56										28.35									
57										29.15	16	34		50					
58										29.35									
59										30.05	17	33		50					
60										30.25									

# ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 3		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯					
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成13年1月12日～13年1月18日			東経				
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)		主任技師	竹内 義一		現場代理人	佐藤 平内 コ 鑑定者 工藤 浩		ボーリング責任者	工藤 浩		
孔口標高	H=0.94m	角	180°上 90°	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試験機	TS-100	ハンマー 落下用具	トンビ
総掘進長	30.50m	度	0°	向				エンジン	NFD-12	ポンプ	NOP-40	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				N値	原位置試験		試験採取方法	室内試験 (掘進月日)
									深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	深 (m)		試験名および結果			
0.54	0.40	0.40		砂質粘土	褐			含水多い。	1.15	2	3	2	7/30				
									1.45	2	2	3	7/30				
									2.15	2	2	3	7/30				
									2.45	2	2	2	6/30				
									3.15	2	2	2	6/30				
									3.45	2	1	3	6/30				
									4.15	2	1	3	6/30				
									4.45	2	2	2	6/30				
									5.15	2	1	2	5/30				
									5.45	2	1	1	4/30				
									6.15	2	1	1	4/30				
									6.45	2	1	1	4/30				
									7.15	1	1	2	4/30				
									7.45	1	1	2	4/30				
									8.15	1	1	2	4/30				
									8.45	1	1	2	4/30				
									9.15	1	1	2	4/30				
									9.45	1	1	2	4/30				
									10.15	1	1	2	2/30				
									10.45	3	4	6	13/30				
									11.15	1	1	2	4/30				
									11.45	1	1	2	4/30				
									12.15	2	2	3	7/30				
									12.45	18	27	5	60/21				
									13.15	8	16	18	42/30				
									13.45	17	21	12	50/23				
									14.05	23	27	7	50/17				
									14.25	13	14	15	42/30				
									15.45	15	20	15	50/25				
									16.15	16	34		50/20				
									16.35	22	28	7	50/17				
									17.15	26	24	6	18/16				
									17.32	50			50/3				
									18.15								
									18.45								
									19.15								
									19.40								
									20.15								
									20.35								
									21.15								
									21.32								
									22.15								
									22.31								
									23.01								

孔口標高	H=0.94m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	TS-100	ハンマー 落下用具	トンビ
総掘進長	30.50m							エンジン	NFD-12	ポンプ	NOP-40

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相對密度	相對稠度	記号	標準貫入試験				N 値	原位置試験		試料採取		掘進月日
									深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	深度 (m)		試験名および結果	深度 (m)	採取方法		
0.54	0.40	0.40		砂質粘土	褐			含水多い。	1/15 1.00	1.15	2 3 2	7/30						
									1/16 2.50	2.15	2 2 3	7/30						
									1/17 2.80	2.45	2 2 2	6/30	2.70	孔内水平載荷試験				
									1/18 4.50	3.15	2 2 2	6/30						
										3.45	2 1 3	6/30						
										4.15	2 1 3	6/30						
										4.45	2 2 2	6/30						
										5.15	2 2 2	6/30						
										6.45	2 1 2	5/30						
										6.15	2 1 2	5/30						
										6.45	2 1 1	4/30						
										7.15	2 1 1	4/30						
										7.45	1 1 2	4/30						
										8.15	1 1 2	4/30						
										8.45	1 1 2	4/30						
										9.15	1 1 2	4/30						
										9.45	1 1 2	2/30						
										10.15	1 1 2	2/30						
										10.45	1 1 2	2/30						
										11.15	3 4 6	13/30						
										11.45	1 1 2	4/30						
										12.15	1 1 2	4/30						
										12.45	2 2 3	7/30						
										13.15	2 2 3	7/30						
										13.45	18 27 5	50/21						
										14.05	18 27 5	50/21						
										14.25	8 16 18	42/30						
										15.15	8 16 18	42/30						
										15.45	17 21 12	50/23						
										16.15	17 21 12	50/23						
										16.35	23 27 7	50/17						
										17.15	23 27 7	50/17						
										17.35	13 14 15	42/30						
										18.15	13 14 15	42/30						
										18.45	15 20 15	50/25						
										19.15	15 20 15	50/25						
										19.40	16 34	50/20						
										20.15	16 34	50/20						
										20.35	22 28 7	50/17						
										21.15	22 28 7	50/17						
										21.35	26 24 6	50/16						
										22.15	26 24 6	50/16						
										22.35	50 3	50/3						
										23.05	50 3	50/3						
										23.05	50 3	50/3						
										24.15	16 18 16	50/25						
										24.40	16 18 16	50/25						
										25.15	14 20 16	50/23						
										25.35	14 20 16	50/23						
										26.15	17 33	50/20						
										26.35	17 33	50/20						
										27.15	16 34	50/20						
										27.35	16 34	50/20						
										28.15	20 30 7	50/17						
										28.35	20 30 7	50/17						
										29.05	19 31	50/20						
										29.25	19 31	50/20						
										30.15	7 13 18	38/30						
										30.45	7 13 18	38/30						

# ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	N o . 4		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯		
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成13年1月11日～13年1月19日		東経		
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)	主任技師	竹内 義一	現場代理人	佐藤 平内	コア鑑定者	八木橋 学	ボーリング責任者	八木橋 学
孔口標高	H=0.84m	角	180°上 90°	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直90° 水平0°	使用機種	東邦D-1 ハンマー 落下用具
総掘進長	30.30m	度	0°	向				エンジン	NFD-12 ポンプ
									トンビ BG-3B

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	標準貫入試験				原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取 番号	採取 方法	室内試験 ( )	掘進 月日
									深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数/ 貫入量 (cm)	N 値							
1	-0.86	1.70	1.70	砂質粘土	褐灰			非常に 含水多い。 φ1~5mmの小礫を混入してい る。	1.15 1/30 1/30	1									1/12
2									1.45 4 4 5 13/30	13									
3									2.15 4 4 3 11/30	11									
4									3.15 4 4 4 12/30	12									
5									4.15 4 4 4 12/30	12									
6				砂混じり火山灰	淡灰~暗灰			含水中位~少ない。 上部火山灰がシルト状になっ ている。 5m付近より砂質強く、φ2~5mm の小礫を混入している。 所々にφ10~30mmの軽石を混入 している。	6.15 2 1 2 5/30	6									
7									6.45 13 15 17 45/30	45									
8									7.15 14 16 20 50/30	50									
9									8.15 13 14 14 41/30	41									
10									8.45 16 20 14 50/28	54									
11									9.15 9 11 13 33/30	33									
12	-10.86	10.00	11.70	火山灰質粘土	灰~淡黄灰			含水中位。 若干砂混じりである。 粘性弱い。 13m付近φ30mm位の珪円礫を混 入している。	10.15 6 5 5 16/30	16									
13	-12.66	1.80	13.50						11.15 4 4 3 11/30	11									
14									12.15 3 3 4 10/30	10									
15				火山灰質砂		密な~ 非常に密な		含水少ない。 砂分は細~中砂である。 13.50~14.50m付近、φ5~10mm の珪円礫を混入している。 17.80m位からφ2~5mmの礫を多 く混入している。	13.45 50 50/10	150									
16									14.15 26 24 50/14	107									
17									14.25 27 23 50/15	100									
18									15.15 26 24 50/20	75									
19									16.15 14 16 12 42/30	42									
20	-18.76	6.10	19.60	砂礫	褐灰~ 黄灰	非常に密な		含水中位。 φ10~30mmの珪円礫主体であ る。 砂分は細~中砂。	17.15 9 7 20 36/30	36									
21									18.15 50 50/5	300									
22	-20.86	2.10	21.70						19.15 32 18 50/13	115									
									20.15 21 29 50/19	79									
									21.15 21 29 50/19										
									22.15 22 20 8 50										

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	標準貫入試験				原位置試験		採取方法	室内試験 (月日)
									深度 (m)	10cmごとの打撃回数 (0 10 20)	打撃回数/貫入量 (cm)	深度 (m)	試験名および結果			
1	0.86	1.70		砂質粘土	褐灰		非常にかたい	含水多い。 φ1~5mmの小礫を混入している。	1.15	1/30	1/30	1				1/12
2									1.45	4	4	5	13			
3									2.15	4	4	3	11			
4									2.45	4	4	3	11			
5									3.15	4	4	4	12			
6									3.45	4	4	4	12			
7									4.15	2	1	2	5			
8									4.45	4	4	4	12			
9									5.15	13	15	17	45			
10									6.15	14	16	20	50			
11									7.15	13	14	14	41			
12									7.45	13	14	14	41			
13									8.15	15	20	14	50			
14									8.45	16	20	14	50			
15									9.15	9	11	13	33			
16									9.43	6	5	5	16			
17									10.15	4	4	3	11			
18									11.15	3	3	4	10			
19									11.45	50			50			
20									12.15	26	24		50			
21									13.15	27	23	5	50			
22									13.45	26	24		50			
23									14.15	26	24		50			
24									14.25	14	16	12	42			
25									15.15	9	7	20	36			
26									16.25	50			50			
27									16.15	32	18		50			
28									16.30	21	29		50			
29									17.15	22	20	8	50			
30									17.35	21	22	7	50			
31									18.15	20	21	9	50			
32									18.45	20	23	7	50			
33									19.15	24	23	3	50			
34									19.45	22	28		50			
35									20.15	26	24		50			
36									20.20	31	19		50			
37									21.15	30	15		100			
38									21.28							
39									22.15							
40									22.34							
41									23.15							
42									23.37							
43									24.15							
44									24.36							
45									25.15							
46									25.36							
47									26.15							
48									26.37							
49									27.15							
50									27.36							
51									28.15							
52									28.36							
53									29.15							
54									29.33							
55									30.15							
56									30.30							

# ボーリング柱状図

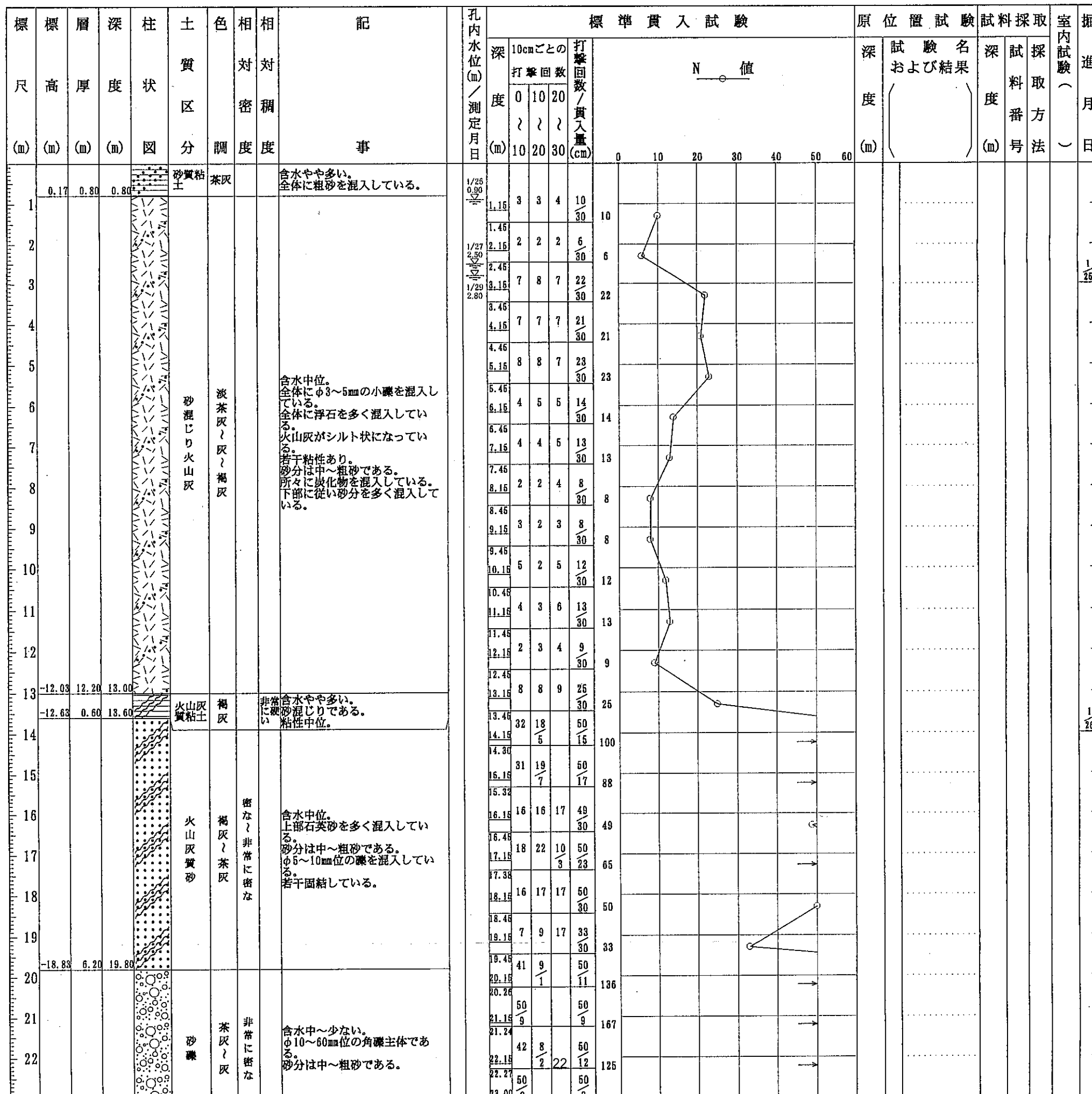
調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 5		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯		
発注機関	青森市建設部 建築営繕課			調査期間	平成13年1月24日 ~ 13年1月30日		東経		
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)		主任技師	竹内 義一		現場代理人	佐藤 平内 ア 佐々木 裕寿		
ボーリング責任者	佐々木 裕寿								
孔口標高	H=0.97m	角	180°上 90°	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	東邦D-1
総掘進長	30.35m	度	0°	向				ハンマー落下用具	トンビ
								エンジン	NFD-12
								ポンプ	BG-3B



標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				N 値	原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験 ( )	掘進 月日						
										10cmごとの 打撃回数 (m)	0	10	20								打撃回数 / 貫入量 (cm)					
1	0.17	0.80	0.80	砂質粘土	茶灰			含水やや多い。全体に粗砂を混入している。	1/25 0.90	1.15	3	3	4	10/30	10					1/25						
2				砂混じり火山灰	淡茶灰 / 灰 / 褐灰			含水中位。全体にφ3~5mmの小礫を混入している。全体に浮石を多く混入している。火山灰がシルト状になっている。若干粘性あり。砂分は中~粗砂である。所々に炭化物を混入している。下部に従い砂分を多く混入している。	1/27 2.50	1.45	2	2	2	6/30	6					1/27						
3						2.45	7		8	7	22/30	22														
4						3.15	7		7	7	21/30	21														
5						3.45	7		7	7	21/30	21														
6						4.15	8		8	7	23/30	23														
7						4.45	4		5	5	14/30	14														
8						5.15	4		4	5	13/30	13														
9						6.15	2		2	4	8/30	8														
10						6.45	3		2	3	8/30	8														
11						7.15	6		2	5	12/30	12														
12						7.45	4		3	6	13/30	13														
13	-12.03	12.20	13.00	火山灰質粘土	褐灰			非常に粘り強い。含水やや多い。砂混じりである。粘性中位。	1/28 2.80	8.15	2	3	4	9/30	9					1/28						
14	-12.63	0.60	13.60	火山灰質砂	褐灰 / 茶灰			含水中位。上部石英砂を多く混入している。砂分は中~粗砂である。φ5~10mm位の礫を混入している。若干固結している。	1/28 3.45	8.45	8	8	9	25/30	25						1/28					
15						1/28 4.15	32		18	5	50/15	100											1/28			
16						1/28 4.30	31		19	7	50/17	88											1/28			
17						1/28 4.45	16		16	17	49/30	49											1/28			
18						1/28 4.65	18		22	10	50/23	65											1/28			
19						1/28 4.75	16		17	17	50/30	50											1/28			
20	-18.83	6.20	19.80			砂礫	茶灰 / 灰				含水中~少ない。φ10~60mm位の角礫主体である。砂分は中~粗砂である。	1/28 4.85	7	9	17	33/30	33							1/28		
21									1/28 4.95	41		9	1	50/11	136											1/28
22									1/28 5.05	50				50/9	167											1/28
23									1/28 5.15	42		8	2	50/12	125											1/28
24				1/28 5.25	60					50/8		188											1/28			
25				砂質凝灰岩	灰 / 褐灰			全体に風化し砂質である。φ5mm程度の礫を混入している。浮石を多く混入している。20m付近より浮石非常に多く混入している。	1/28 5.35	13	20	17	50/29	52							1/28					
26						1/28 5.45	14		18	18	50/25	60											1/28			
27						1/28 5.55	21		29	9	50/19	79											1/28			
28						1/28 5.65	50				50/9	167											1/28			
29						1/28 5.75	25		25	8	50/18	83											1/28			
30						1/28 5.85	21		26	3	50/21	71											1/28			
31						1/28 5.95	24		26		50/20	75											1/28			
32	-29.38	6.65	30.35									1/29 0.00	30.35										1/29			



# ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 6		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯		
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成13年1月23日～13年1月31日		東経		
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)		主任技師	竹内 義一	現場代理人	佐藤 平内	コア鑑定者	工藤 浩	
ボーリング責任者			試錐機	TS-100		ハンマー落下用具	トンビ		
孔口標高	H=0.89m	角	180°上 90° 0°下	方	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直0° 水平0°	エンジン	ヤンマーNFD-10
総掘進長	30.37m	度		向				ポンプ	NOP-40

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)/測定月日	標準貫入試験				N値	原位置試験	試験名および結果	採取深度 (m)	試料採取番号	採取方法	室内試験 ( )	掘進月日		
										深	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	0									10	20
0.19	0.70	0.70		砂質粘土	褐			含水中位。 φ2mm位の小礫混入する。	17.25 0.50 17.00 1.00 17.50 1.50	1.15	2	2	2	6									
				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水中位。 石英砂を多く混入している。 6.00m付近から含水やや多くなる。 φ2~3mmの浮石を多く含んでいる。 小礫混入する。 7.00m付近より、軽石を含んでいる。 max φ50mmの軽石を含む。 11.00m付近より、5cm位の浮石の薄層を所々に挟んでいる。 下部に従い砂質強くなる。		1.45	1	2	3	6									
				火山灰質粘土	淡灰	固結		含水少ない。 部分的に固結し非常に締まっている。		2.15	1	2	3	6									
				火山灰質砂	淡黄灰~褐灰	密な~非常に密な		含水やや多い。 石英砂を多く混入している。 中~粗砂である。 小礫混入する。		2.45	2	3	3	8									
				火山灰質粘土	暗灰~暗茶	硬い~非常に硬い		含水中位。 全体に有機質である。 18.00~18.80m、暗灰色で粘性やや強い。 18m以深より若干固結みで所々に中砂を含んでいる。		3.15	2	3	3	8									
				砂礫	褐灰	非常に密な		含水中位。 全体に粘土混じりである。 φ5~20mmの珪円礫主体である。 max φ60mmの珪円礫を混入している。		3.45	1	1	2	4									
										4.15	1	1	2	4									
										4.45	1	2	2	5									
										5.15	1	2	2	5									
										5.45	1	1	1	3									
										6.15	1	1	1	3									
										6.45	1	2	3	6									
										7.15	1	2	3	6									
										7.45	9	9	13	31									
										8.15	9	9	13	31									
										8.45	9	11	13	33									
										9.15	9	11	13	33									
										9.45	16	19	15	50									
										10.15	16	19	15	50									
										10.42	13	18	19	60									
										11.15	19	18	13	60									
										11.43	19	18	13	60									
										12.05	19	18	13	60									
										12.32	7	14	20	41									
										13.15	9	11	17	37									
										13.45	9	11	17	37									
										14.15	16	34		50									
										14.45	16	34		50									
										15.05	21	29		50									
										15.25	21	29		50									
										16.05	28	22		60									
										16.25	28	22		60									
										17.05	28	22		60									
										17.25	28	22		60									
										18.15	2	3	3	8									
										18.45	7	8	9	24									
										19.15	7	8	9	24									
										19.45	4	6	12	22									
										20.15	4	6	12	22									
										20.45	50			60									
										21.15	8			188									
										21.25	12	14	16	42									
										22.15	12	14	16	42									
										22.45	14	20	16	50									



# ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo. 

--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 7		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯				
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成13年1月13日～13年1月16日			東経			
調査業者名	株式会社 しんとろ計測 電話(017-774-4006)		主任技師	竹内 義一		現場代理人	佐藤 平内		コア鑑定者	成田 実	
ボーリング責任者	成田 実			試験機	KT-3型			ハンマー落下用具	トンビ		
孔口標高	H=0.93m	角	180°上 90° 0° 下		方	北0° 270° 90° 180° 西 東 南		地盤勾配	鉛直	水平 0° 90°	
使用機種	エンジン			NFD10-EK			ポンプ	KP-20			
総掘進長	30.35m										

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験 ( )	掘進 月日
									深	10cmごとの 打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)							
0.43	0.50	0.50		砂質粘土	褐			含水多い。全体に粗砂を混入している。	1.13	0.75								
1				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	1.16	3	3	3	9					
2				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	2.16	2	2	3	7					
3				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	3.16	3	2	3	8					
4				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	4.16	3	3	2	8					
5				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	5.16	2	2	2	6					
6				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	6.16	2	2	2	6					
7				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	7.16	1	1	1	3					
8				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	8.16	1	1	2	2					
9				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	9.16	1	1	2	2					
10				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	10.16	3	3	4	10					
11				砂混じり火山灰	褐灰~暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。	11.16	9	10	13	32					
12	-11.17	11.60	12.10		火山灰質粘土	黄灰	非常に硬い	含水中位。若干砂質で固結みである。粘性中位。	12.16	5	5	6	16					
13	-11.97	0.80	12.90		火山灰質砂	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。	13.16	50			50					
14					火山灰質砂	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。	14.16	19	15	11	45					
15					火山灰質砂	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。	15.16	14	20	16	50					
16					火山灰質砂	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。	16.16	34	16	4	50					
17					火山灰質砂	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。	17.16	12	23	15	50					
18					火山灰質砂	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。	18.16	21	23	6	50					
19	-17.67	5.70	18.60		砂礫	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水中位。粘土混じりで風化した浮石を多く含む。20m付近、maxφ50mm位の角礫を混入している。砂分は粗砂である。	19.16	12	15	16	43					
20					砂礫	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水中位。粘土混じりで風化した浮石を多く含む。20m付近、maxφ50mm位の角礫を混入している。砂分は粗砂である。	20.16	50	8		50					
21	-19.87	2.20	20.80		砂礫	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水中位。粘土混じりで風化した浮石を多く含む。20m付近、maxφ50mm位の角礫を混入している。砂分は粗砂である。	21.16	2	3	6	11					
22					砂礫	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水中位。粘土混じりで風化した浮石を多く含む。20m付近、maxφ50mm位の角礫を混入している。砂分は粗砂である。	22.16	10	20	20	50					
23					砂礫	茶褐~暗褐	密な~非常に密な	含水中位。粘土混じりで風化した浮石を多く含む。20m付近、maxφ50mm位の角礫を混入している。砂分は粗砂である。	23.16	20	30		50					

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験 ( )	掘進 月 日	
										深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数 / 貫入量 (cm)							
											0	10	20								
0.43	0.50	0.50		砂質粘土	褐			含水多い。全体に粗砂を混入している。	1/13 0.75	1.15	3	3	3	9	9						
1									1/15 2.25	1.45	2	2	3	7	7						
2									1/16 3.40	2.45	3	2	3	8	8						
3										3.15	3	2	3	8	8						
4										3.45	3	3	2	8	8						
5				砂混じり火山灰	褐灰 / 暗灰			含水多い。火山灰がシルト状になっている。石英砂を含んでいる。所々に炭化物を含んでいる。φ5mm位の礫を若干混入している。6.70m付近、φ50mm位の礫を混入している。10m以深から含水中位。		4.15	3	3	2	8	8						
6										4.45	2	2	2	6	6						
7										5.15	2	2	2	6	6						
8										6.45	2	2	2	6	6						
9										6.15	2	2	2	6	6						
10										6.45	1	1	1	3	3						
11										7.15	1	1	1	3	3						
12	-11.17	11.60	12.10	火山灰質粘土	黄灰	非常に硬い		含水中位。若干砂質で固結みである。粘性中位。		7.45	1	1	1	3	3						
13	-11.97	0.80	12.90							8.15	1	1	2	2	2						
14										8.45	1	1	2	2	2						
15				火山灰質砂	茶褐 / 暗褐	密な / 非常に密な		含水少ない~中位。13.30~13.50m、茶褐色の細砂を挟む。均一した細砂である。φ2mm位の浮石を含んでいる。18m付近よりφ5~10mmの礫を少量混入している。		9.15	1	1	2	2	2						
16										9.50	3	3	4	10	10						
17										9.15	1	1	2	2	2						
18	-17.67	5.70	18.60							10.15	3	3	4	10	10						
19				砂礫	茶褐 / 暗褐	密な / 非常に密な		含水中位。粘土混じりで風化した浮石を多く含む。20m付近、max φ50mm位の角礫を混入している。砂分は粗砂である。		10.45	9	10	13	32	32						
20	-19.87	2.20	20.80							11.15	5	5	6	16	16						
21										11.45	5	5	6	16	16						
22										12.15	5	5	6	16	16						
23										12.45	50			50	50						
24				砂質凝灰岩	黄灰 / 暗褐			全体に風化し、軽石が砂状になっている。20.80~21.50m、風化した軽石を挟んでいる。23m付近より粗粒の石英砂を含んでいる。φ5mm前後の小礫を混入している。所々にφ10~15mm前後の風化した軽石を含んでいる。		13.15	19	15	11	45	45						
25										13.25	50			50	50						
26										14.15	19	15	11	45	45						
27										14.45	14	20	16	50	50						
28										15.15	14	20	16	50	50						
29										15.40	34	16	4	50	50						
30	-29.42	9.55	30.35							16.15	34	16	4	50	50						
										16.25	12	23	15	50	50						
										16.29	12	23	15	50	50						
										17.15	21	23	6	50	50						
										17.39	21	23	6	50	50						
										18.15	21	23	6	50	50						
										18.37	12	15	16	43	43						
										19.15	12	15	16	43	43						
										19.45	50			50	50						
										20.15	8			8	8						
										20.23	2	3	6	11	11						
										21.15	2	3	6	11	11						
										21.45	10	20	20	50	50						
										22.15	10	20	20	50	50						
										22.45	20	30		50	50						
										23.15	20	30		50	50						
										23.35	21	29		50	50						
										24.15	15	20	15	50	50						
										24.35	15	20	15	50	50						
										25.15	15	20	15	50	50						
										25.42	14	21	15	50	50						
										26.15	14	21	15	50	50						
										26.39	17	23	10	50	50						
										27.15	17	23	10	50	50						
										27.37	19	31		50	50						
										28.15	18	32		50	50						
										28.32	18	32		50	50						
										29.15	18	32		50	50						
										29.32	19	31		50	50						
										30.15	19	31		50	50						
										30.35											

# ボーリング柱状図

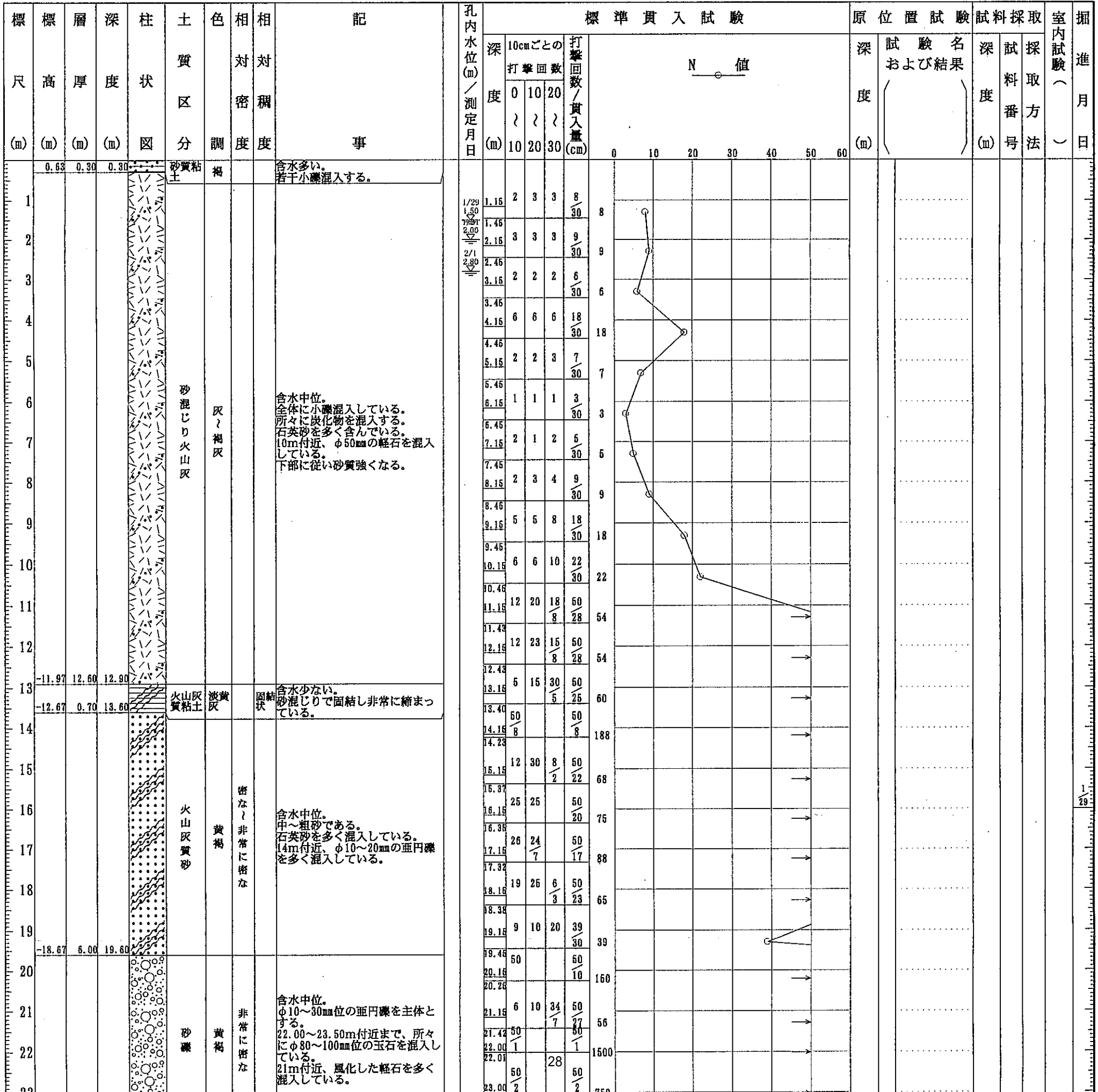
調査名 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託

ボーリングNo									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 8		調査位置	青森市大字三内字丸山393-261地内			北緯	
発注機関	青森市建設部建築営繕課			調査期間	平成13年1月27日～13年2月1日		東経	
調査業者名	株式会社 しんとう計測 電話(017-774-4006)		主任技師	竹内 義一		現場代理人	佐藤 平内 ア 福士 豊	
孔口標高	H=0.93m	角	180°上 90° 0°下		方	北 0° 270° 西 180° 東 90° 南		地盤勾配
総掘進長	30.25m	度	0°		向	鉛直 90° 0°		使用機種
						試錐機	TDC-1G	
						エンジン	NFD-12	ハンマー落下用具
								ポンプ
								トンビ
								NOP-40



標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状 図	土質 区分	色調	相対 密度	相対 稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					N 値	原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	採取 深度 (m)	採取 番号	採取 方法	室内試験 ( )	掘進 月日
										深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃回数 / 貫入量 (cm)								
											0	10	20									
1	0.63	0.30	0.30	砂質粘土	褐			含水多い。 若干小礫混入する。	1/29 1.50	2	3	3	8	8								
2									1.50	3	3	3	9	9								
3									2.15	2	2	2	6	6								
4				砂混じり火山灰	灰褐色			含水中位。 全体に小礫混入している。 所々に炭化物を混入する。 石英砂を多く含んでいる。 10m付近、φ50mmの軽石を混入している。 下部に従い砂質強くなる。	2/1 2.80	6	6	6	18	18								
5									2.45	2	2	3	7	7								
6									3.15	1	1	1	3	3								
7									3.45	2	1	2	5	5								
8									4.15	2	3	4	9	9								
9									4.45	5	6	8	18	18								
10									5.15	6	6	10	22	22								
11									5.45	12	20	18	50	54								
12									6.15	12	23	15	50	54								
13	-11.97	12.60	12.90	火山灰質粘土	淡黄灰	固結状		含水少ない。 砂混じりで固結し非常に締まっている。	11.45	5	15	30	50	60								
14	-12.67	0.70	13.60						12.15	50			50	188								
15									12.45	12	30	8	50	68								
16				火山灰質砂	黄褐	密なり非常に密な		含水中位。 中～粗砂である。 石英砂を多く混入している。 14m付近、φ10～20mmの重円礫を多く混入している。	13.15	25	25		50	75								
17									13.40	26	24	7	50	88								
18									14.15	19	25	6	50	65								
19									14.25	9	10	20	39	39								
20	-18.67	6.00	19.60						14.40	6	10	34	50	56								
21				砂礫	黄褐	非常に密な		含水中位。 φ10～30mm位の重円礫を主体とする。 22.00～23.50m付近まで、所々にφ80～100mm位の玉石を混入している。 21m付近、風化した軽石を多く混入している。	15.15	20			50	750								
22									15.37	50			50	150								
23									16.15	21	30	10	50	65								
24	-22.87	4.20	23.80						16.38	21	42	1	50	1600								
25									17.15	50			50	750								
26				砂質凝灰岩	暗黄褐			全体に小礫混じりで砂質である。 浮石粒、軽石を多く混入している。 25m付近、φ10mm位の角礫を混入している。	17.32	20	30	8	50	83								
27									18.15	20	26		50	75								
28									18.38	26	33		50	150								
29									19.15	50			50	150								
30	-29.32	6.45	30.25						19.18	50			50	167								
									20.25	50			50	160								

5-4 CBR試験結果

(1) 土質構成

試料は、現地盤より路床と思われる部分より採取し試験に供した。路床になりうる部分の土質は、両地点共砂混じり火山灰で構成されている。

火山灰は石英砂を含み、所々に小礫・炭化物の混入が見られる。

次頁にCBR試料採取土質柱状図を示す。

(2) 試験結果





試験による各値は、供試体2個の平均とした。

表5-7 CBR試験結果

位置 No.	土質名	自然含水比 %	CBR %
1	砂混じり火山灰	47.7	1.4
2	砂混じり火山灰	32.7	0.9

## 図 5 - 5 C B R 試料採取土質柱状図

調査名・調査地点 (仮称) 青森市中学校給食共同調理場建設用地地質調査業務委託  
 位 置 青森市大字三内字丸山 393 - 261 地内  
 調査年月日 平成 13 年 1 月 日

No. 1		No. 2		No.					
標高		標高		標高					
深度	層厚	図表	土質名	記 事	図表	層厚	図表	土質名	記 事
0.40	0.40		砂質粘土 (褐灰)	上部碎石を多く 混入している		0.40	0.40	砂質粘土 (褐灰)	小礫を混入して いる
1.30	0.90		砂混じり 火山灰 (暗灰)	石英砂を混入し ている 炭化物を混入し ている GL-0.70m付近 より変状土にて 試料採取		1.30	0.90	砂混じり 火山灰 (暗灰)	石英砂を混入し ている 炭化物を混入し ている GL-0.70m付近 より変状土にて 試料採取



(3) 路線の設計 C B R の決定

設計 C B R の算定は、日本道路協会簡易舗装要綱に基づいて算定する。

設計 C B R は予備調査により、路床土が均一とみなされた区間内のいくつかの地点における C B R のうち最小値をその区間の設計 C B R とする。また、いくつかの C B R のうち最小値が極端に小さい場合、次の表を利用し棄却検定を行う。そのような箇所ではベンケルマンたわみ量試験の結果を利用して路床土を局部的に置き換えたり、舗装厚を増すなどの処理が必要かどうか検討する。

表 5 - 8 棄却検定に用いるの  $\gamma$  (n, 0.05) 値

個数 (n)	3	4	5	6	7	8	9	10
$\gamma$ (n, 0.05)	0.941	0.765	0.642	0.560	0.507	0.468	0.437	0.412

最小値の棄却検定の場合

$$\gamma = \frac{\text{最小値より一つ上の値} - \text{最小値}}{\text{最大値} - \text{最小値}}$$

次に  $\gamma$  の値を次の表の  $\gamma$  (n, 0.05) の値と比較して  $\gamma > \gamma$  (n, 0.05) で棄却し、 $\gamma < \gamma$  (n, 0.05) で採用する。

今回の場合、試験実施が 2 箇所である為、棄却判定は必要なく設計 C B R は次のように求められる。

表 5 - 9 設計 C B R と舗装厚の標準

設計 C B R	1.6	2	3	4	6	8	12	20 以上
舗装厚 cm	50	40	33	27	22	18	14	10

以上、0.9は表5-9に示す設計CBRの最小値である  
1.6を下回り、現状では路床の改良が必要となる。

また、現地盤では表層が粘性土であるため、工事用車両の出入りの際は碎石を敷き詰めるなどの対策が必要と考える。